

EM ボカシ容器の 上手な使い方

EM ボカシとは、米ヌカやもみガラ、糖蜜に EM 菌（有効微生物群）を混和し発酵させた発酵合成型有機肥料のことで、生ごみ等を EM 菌によって発酵させ肥料にします。

作業の手順は？

【用意するもの】


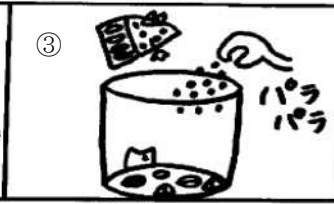

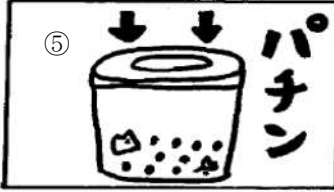
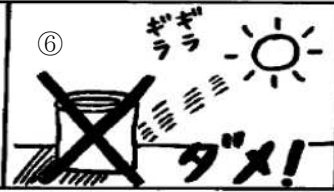

EM ボカシ容器… 2 個あれば便利

生ごみ（紙・ビニールは入れない）

EM ボカシ（湿気と直射日光を避けて保管）

生ごみ 1 kg に対して

ボカシ 20 g の割合

			
① 容器の底にボカシを ひとつかみまく	② 生ごみは十分水切りする (大きな生ごみは 3 cm 以下 にカットする)	③ 生ごみとボカシを入れる ※生ごみ 1 kg に対して ボカシ 20 g (およそひとつかみ程度)	④ 生ごみとボカシをよく混ぜた後、 表面にボカシをひとつかみまく (当日入れたものだけを混ぜる)
			
⑤ しっかりフタをする (発酵する際に出るガスに よりフタがふくれる時は、 こまめにガス抜きする)	⑥ 直射日光を避け保管し、 ②以降の作業を繰り返す (前日までの分に重ねて層 にする)	⑦ 容器の底にたまる液体 (液肥) が生ごみにつかる と腐りやすい。こまめに 抜いて早く使い切る。	⑧ 一杯になった容器は 1 週間～ 10 日間保管して熟成させる。 その間は別容器で作業する。

チェックポイント！

◎ 生ごみの水切りはしっかりと！

◎ 生ごみは新鮮なうちに処理！（その日の生ごみはその日のうちに）

◎ 夏場はボカシを多めにふりかける！

成功例

- 甘酸っぱい匂いがする
- 生ごみの形に変化が少ない
- 生ごみの色に変化が少ない

失敗例

- × 腐敗臭がする
- × ウジ等がわく
- × 生ごみの色が黒っぽくなる

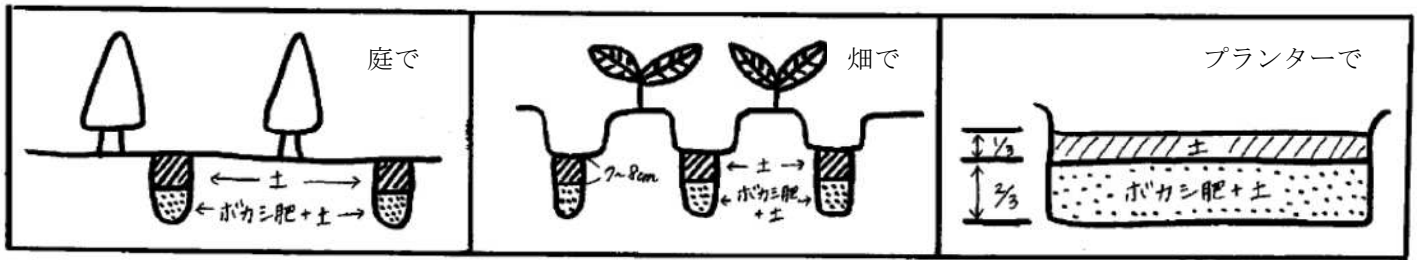
失敗原因

- △ 液肥を抜いていない
- △ ボカシの量が少ない
- △ 生ごみの水切りが不十分
- △ ボカシと生ごみがよく混ざっていない
- △ 容器が密封できていない
- △ 腐った生ごみが多い

熟成した後の
利用方法は？

熟成したもの（ボカシ肥）及び液肥はこんなところで利用します！

【ボカシ肥の場合】ボカシ肥を土に入れ、20日以上たってから種や苗を植える



◎庭木の場合は所々に穴を掘って
埋める程度でよい
(酸性が強いので根元に入れない)

◎ウネとウネの間に入れてその上に
7～8cm程度の土を盛る

◎土とボカシ肥をよく混ぜ、土をかぶせて
ビニール等で覆い、2～3週間おく
(水分が多いと腐敗するので1週間～
10日間は水をかけない)

【液肥の場合】追肥にもなるし、清浄・消臭効果がある



◎1,000倍程度に薄め、10日間
に1回、追肥として使用する
(葉や作物には直接かけないこと)

◎500倍程度に薄め、台所の流しや浴室の排水口、トイレ等から
1～2週間に1回、1～2リットル流す

どうして？困った！EM ボカシ相談室

Q1：生ごみを腐敗させないで作るコツは？

- A：・水切りをよくする（三角コーナーで水がたれない程度に）
・新鮮なうちに容器に入れる（密封状態を保つ）
・夏場はボカシ剤を多めにふりかける ・直射日光に当てない

Q2：成功（発酵）と失敗（腐敗）の見分け方は？

- A：量はあまり減りませんが、甘酸っぱい匂い、糠漬けやヨーグルトのような匂いなら成功。
生ごみの腐った臭いは失敗です。

Q3：熟成中に出てきた白いカビは？

- A：悪臭がしなければ、白いカビは有効な菌なので大丈夫です。悪臭がするなら、ボカシ剤を
多めにかけて様子を見てください。もし失敗したら土の中に埋めましょう。

Q4：EM ボカシ容器とコンポスト容器の違いは？

- A：EM ボカシ容器…空気や日光を嫌う菌（嫌気性菌）で生ごみを発酵させ堆肥化します。容
器内では生ごみの量はほとんど変わりませんが、いったん土の中に埋めると急速に発酵分
解が進むのがボカシ剤を活用した生ごみ肥料の特徴です。クローズタイプ。
コンポスト容器…土の中の日光や空気を好む菌（好気性菌）で生ごみを堆肥化します。
オープンタイプ。